

# 中津における先進事例報告

～ 中津干潟カブトガニ調査 ～

～ 大新田海岸ビーチクリーン ～

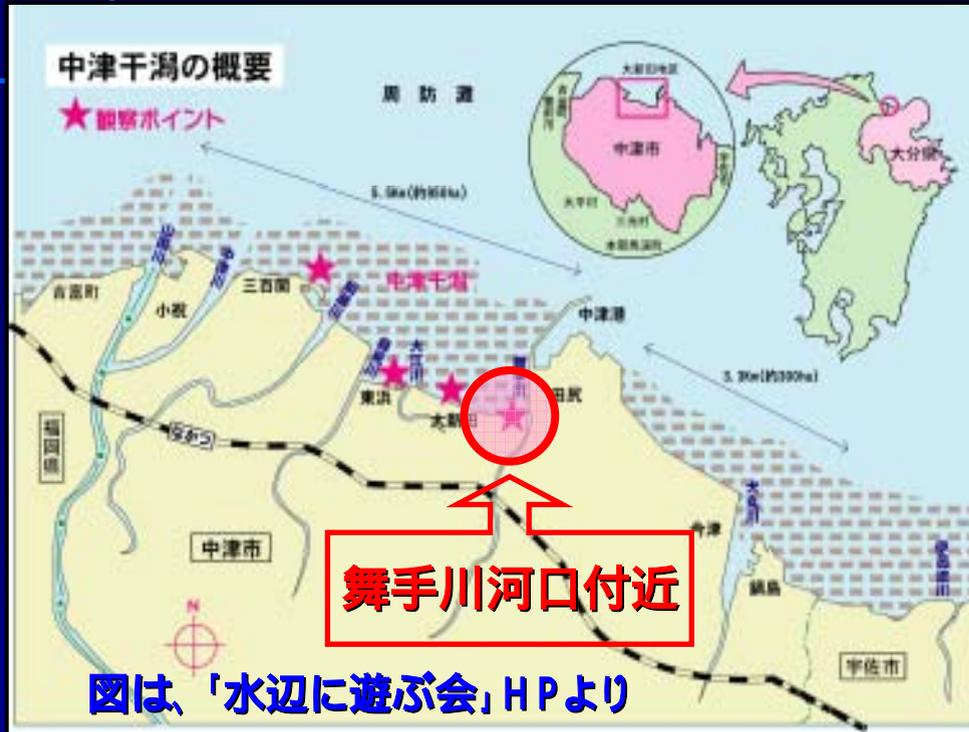
研究第三部 城戸

# 1. 調査概要

## 【調査事例】 中津干潟カブトガニ調査

- ・調査日：平成17年9月17日, 18日
- ・調査個所：舞手川河口付近
- ・調査目的：カブトガニの幼生調査  
(齢数、個体数)
- ・調査人数：「水辺に遊ぶ会」のメンバー5名程度で実施
- ・必要費用：無し

# 調査箇所(調査事例)



今回調査を行った箇所は、中津干潟のうち、舞手川河口付近(図中の赤丸部分)に該当します。また、この地区(大新田・東浜)には多様な底生生物が生きる200ha程の泥質干潟が広がり、絶滅危惧種のズグロカモメが越冬し、春秋の渡りの時期には多くのシギやチドリがやってくる地区でもあります。

# 調査結果

## 【調査事例】 中津干潟カブトガニ調査

設定したコドラート  
(50m × 100m) 内でカ  
ブトガニを150個体程  
度確認した。

また、齢数は3齢～7  
齢程度であった。



## 【調査事例】 大新田海岸ビーチクリーン

- ・調査日：平成17年9月18日
- ・調査個所：大新田海岸
- ・調査目的：海岸に散乱するゴミの清掃
- ・調査人数：「水辺に遊ぶ会」のメンバー数名と一般参加約40名を合わせて50名程度であった。
- ・必要費用：無し(但し、傷害保険代のみ徴集)

# 調査箇所(調査事例)



大新田海岸(H17.9.18撮影)

今回ビーチクリーン活動を行った大新田海岸には、右写真に示すように数百メートルにわたって階段護岸が施工されており、利用に配慮した整備が行われている箇所でもあります。

# 調査結果

## 【調査事例】 大新田ビーチクリーン

ポリ袋50袋程度で、ビニール袋の切れ端やカン、ビン等が多く見られた。



集められたゴミ

## 2. 地域との連携について

### 調査に関する官民連携

#### 地元組織(NPO等)の調査活動

【組織の運営】  
会員の会費 他

【調査等に必要な物資】

- ・長靴
- ・手袋(軍手)
- ・スコップ
- ・ゴミ袋
- ・その他必要物資

行政(国土交通省、中津市)による物資・資金の提供

企業、団体からの物資、資金、人材の援助

# 環境学習に関する官民連携

山国川学習館(山国川河川事務所内)

**「水辺に遊ぶ会」と行政との協働  
による運営管理**



山国川学習館内の様子

行政(国土交通省)による場の提供

企業、団体、地域住民からの展示物、書籍等の提供

# 組織(NPO等)の適切性

## 組織(NPO等)の適切性に関する判断基準(例)

中津における調査例から、行政が組織と良好な関係を築くためには、組織の適切性に関して判断する必要があるものと考えられる。以下に、組織の適切性を判断する基準(例)を示した。

目的を持ち、多様な活動を行っていること。  
自然環境に関して、行政との共通の問題意識を持っていること。  
海岸だけでなく、河川にも着目していること。  
流域の歴史文化にも興味を持っていること。  
マスコミや地域に高く評価されていること。

# 終わりに

中津におけるカブトガニ調査およびビーチクリーン活動に際し、「水辺に遊ぶ会」の方々をはじめ、国土交通省、中津市等の方々にご協力を頂きました。

ここに、あらためてお礼を申し上げます。